

令和5年7月10日
参考資料
(県政、秦野記者クラブ同時送付)

「黒岩祐治が行く！神奈川の現場」(知事現場訪問) 次世代交通システムとして「自走型ロープウェイ」を 開発するベンチャー企業を知事が訪問しました

秦野市に本社を置く Zip Infrastructure 株式会社は、次世代交通システムとなる「自走型ロープウェイ『Zippar』」の開発に取り組んでいます。知事は、令和5年7月10日にロープウェイの試作機を見学・試乗するとともに、Zip Infrastructure 株式会社の須知 代表取締役社長と秦野市長との意見交換を行いました。

はじめに、Zip Infrastructure 株式会社の須知 代表取締役社長から、開発中の「自走型ロープウェイ『Zippar』」の特徴、従来の交通機関と比較した際の利点などの説明をお聞きしました。

「Zippar」は乗客が乗車するキャビン自体が自走することで、カーブと分岐が可能になり、道路上に建設できるようになった次世代型のロープウェイです。鉄道、モノレールや路面電車などと比較して安価に設置することができ、都市の渋滞などの交通問題の解決が期待されます。



続いて、Zip Infrastructure 株式会社の工場内に設置された「Zippar」の試作機に乗車しました。

実際に試乗し、「自走型ロープウェイ」のイメージが実感できました。

電気自動車を動力として活用しており、音も静かで乗り心地はとても良いものでした。

2018 年度に学生ビジネスプランコンテストで知事賞を受賞してから、短期間のうちに試作機の完成にまで至ったことに大変感動しました。



最後に、この「Zippar」の実現に向けた今後の展開、特に県内での展開について須知社長及び秦野市長と意見交換を行い、実現の可能性を確認しました。

県としても神奈川県発の次世代交通システムとして「Zippar」の実現の後押しをしていくとともに、Zip Infrastructure 株式会社を始めとした有望なベンチャー企業の創出と成長に向け、しっかりと取り組んでいきます。



【参考:Zip Infrastructure 株式会社について】

須知 代表取締役社長が慶應義塾大学工学部に在学中の2018年に起業。
自走型ロープウェイは、2018年度の県主催「かながわ学生ビジネスプランコンテスト」で知事賞を受賞。

- ・ 住所: 秦野市菩提 42-1
- ・ 設立: 2018年7月
- ・ 代表: 須知 高匡 代表取締役社長
- ・ 事業概要: カーブと分岐が可能になり道路上に建設できるようになった次世代の電動自走型ロープウェイ「Zippar」の開発



(自走型ロープウェイ「Zippar」)



(知事賞を受賞した際の写真:
写真左: 須知 社長)

問合せ先

神奈川県産業労働局産業部

ベンチャー支援担当課長

井上

電話 045-285-0213

産業振興課新産業振興グループ

徳永

電話 045-210-5636